

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名		感染症研究国際ネットワーク推進プログラム		担当部局庁	研究振興局		作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度		平成22年度～		担当課室	研究振興戦略官付		研究振興戦略官 岡村 直子			
会計区分		一般会計		施策名	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進					
根拠法令 (具体的な条項も記載)		-		関係する計画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)、科学技術外交の強化に向けて(平成20年5月総合科学技術会議決定)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		感染症が人類に対する脅威となっていることに鑑み、これまでに整備した新興・再興感染症研究拠点の更なる充実・強化を図ることにより、持続的な研究活動を進める基盤を確立する。また、国内外の研究機関との連携を深め、感染症対策に資する知見の集積、人材育成等を図ることにより、国際貢献を果たしつつ、日本国民ひいては人類の健康と安全を守ることに寄与する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)		第1期(平成17年度～平成21年度)において整備し、現在アジア・アフリカの8か国13か所に展開する海外拠点を活用して、感染症対策に資する研究開発の推進を集中的・継続的に実施し、基礎的知見の更なる集積、人材育成等を推進する。さらに、従来拠点ごとに行われていた研究について、共通の課題ごとに拠点間の連携研究体制を構築するとともに、広く国内関係機関の参加も得て研究を進め、疾患・テーマ別の研究推進体制(研究コンソーシアム)を構築する。								
実施方法		<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		予算の状況	当初予算	-	-	1,900	1,722	1,722		
			補正予算	-	-	-	-	-		
			繰越し等	-	-	-	0	-		
		計		-	-	1,900	1,722	1,722		
		執行額		-	-	1,898	-	-		
執行率(%)		-	-	99.9%	-	-				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (26年度)	
		事業を通じて育成した研究人材の数(累積)		成果実績	人	-	-	104	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
		発表論文数		活動実績 (当初見込み)	本	-	-	234	(-)	(240)
				算出根拠	単位当たりコスト = H22までの投入費用(1,900百万円) / 発表論文数(234本)					
単位当たりコスト		論文1本あたりのコスト 8(百万円/本)								
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由						
	科学技術試験研究委託費	1714百万円	1714百万円							
	非常勤職員手当	4百万円	4百万円							
	職員旅費	3百万円	3百万円							
	委員等旅費	1百万円	1百万円							
	計	1,722百万円	1,722百万円							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○各研究拠点が、国内外の研究機関とも連携を深めつつ、本プログラムで構築したネットワークを活用し共同して研究を行い、各拠点に集積した知見、研究成果を共有することで、より効率的に感染症研究を推進すべき。</p> <p>○昨年の行政事業レビューの指摘を踏まえ、各拠点において運営ノウハウが蓄積されてきていることから、感染症ネットワークセンターの業務を見直し、運営サポートに係る経費の縮減を図るべき。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、新興・再興感染症に関する海外研究拠点の構築などにより、研究人材の育成等を行う競争的資金である。</p> <p>2. 所見：この事業は、平成22年度から「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」として、第2期のプログラムを開始したところであるが、平成21年度レビュー等の指摘を踏まえ、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、事業の重点化、コスト縮減等に努めるべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。</p>		
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
<p>当プログラムは第1期で拠点形成が終了したことにより、第2期は研究事業に予算を重点化している。今回の所見を踏まえ、シンポジウムに要する費用の効率化を図ることにより事業のコスト縮減に努め、平成24年度概算要求において3百万円を縮減。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p>【事業仕分け】 <事業番号/事業名> 事業番号3ー38 競争的資金(ライフサイエンス分野) <結果> 廃止又は予算要求の縮減(2割～半額) <とりまとめコメント> 感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(第Ⅱ期)については、廃止が3名、来年度予算計上は見送りが2名、予算要求の縮減4名、そのうち半額縮減が2名、2割縮減が2名であった。縮減、廃止と出てきた中身については、厚生労働省との連携、大学の能力を生かして縮減、あるいは、これそのものが厚生労働省の仕事ではないかというのが出ている。その評価を見て、厚生労働省との連携あるいは協力を前提として、廃止又は2割～半額の縮減とさせていただきたい。</p>			

文部科学省
1,898百万円

非常勤職員手当	3.0百万円	} を含む
諸謝金	0.5百万円	
職員旅費	0.3百万円	
外国旅費	1.5百万円	
委員等旅費	1.0百万円	

アジア・アフリカ8か国13か所に設置した海外研究拠点を活用し、感染症対策に資する基礎的知見の集積・人材育成等を実施するための研究課題を審査・選定し、研究の推進と体制の整備、資金の配分と適切な使用等に関して、マネジメントを実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

【公募・委託】

A: 感染症研究

支出総額: 1,747百万円
大学等(全21機関)

アジア・アフリカ8か国に設置した海外研究拠点を活用し、感染症対策に資する基礎的知見の集積・人材育成等を実施 等

【随意契約・委託】

B: 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター

支出総額: 145百万円
独立行政法人(1機関)

海外研究拠点間のネットワーク、連携研究の推進

A. 国立大学法人東京大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務実施費	消耗品(実験動物類、理化学機材類、薬品類等)	67			
	外国旅費(中国拠点への移動費)	46			
	雑役務、外国人等招へい旅費、印刷製本費、借損料	45			
人件費	業務担当職員	87			
間接経費		77			
設備備品費	顕微鏡、超低温フリーザー、遺伝子導入装置 等	11			
計		333	計		0
B. 独立行政法人理化学研究所			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務実施費	消耗品(事務用品等)	2			
	国内旅費、外国旅費	5			
	借損料	17			
	雑役務、外国人等招へい旅費、印刷製本費、借損料 等	25			
人件費	業務担当職員	82			
一般管理費		13			
設備備品費	電子計算機 等	1			
計		145	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A. 感染症研究

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人東京大学	中国との連携を基軸とした新興・再興感染症の研究 等	333	企画競争	-
2	国立大学法人大阪大学	新興・再興感染症制圧に向けた日本タイ連携研究拠点形成	323	企画競争	-
3	国立大学法人長崎大学	ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト 等	245	企画競争	-
4	国立大学法人北海道大学	人獣共通感染症克服のための国際共同研究 等	192	企画競争	-
5	独立行政法人国立国際医療研究センター	ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト 等	118	企画競争	-
6	国立大学法人神戸大学	インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同拠点形成 等	117	企画競争	-
7	国立大学法人東北大学	フィリピンの新興・再興感染症研究拠点における国際共同研究 等	108	企画競争	-
8	国立大学法人岡山大学	インド国を拠点とした腸管感染症の研究	102	企画競争	-
9	国立大学法人東京医科歯科大学	西アフリカ地域の研究拠点を核とした感染症研究の戦略的展開	100	企画競争	-
10	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構	新興・再興感染症制圧に向けた日本タイ連携研究拠点形成	52	企画競争	-

※)「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(第1期:平成17~21年度)開始の際に公募を実施。第1期プログラムにおいて構築した研究拠点を、本プログラムにおいても拠点として活用するため引き続き事業を委託。なお、一部の課題については平成22年に公募を行っている。

B. 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人理化学研究所	新興・再興感染症研究ネットワーク推進センターの運営に係る業務	145	随意契約	-